

研究主題

「人とのつながり

集団の中で育む 思いやりの心」



### 主題設定の理由

松江第二中学校では「すすんで学ぶ生徒 心の豊かな生徒 健康でたくましい生徒」の三つの教育目標を掲げ生徒の指導に当たっている。また、他の人を思いやり、団結し、協力しあう姿勢を「松二魂」と称し、行事等には学校全体で取り組むことに力を入れている。しかしこの数年は主体性がなく周りに流されたり、他者とのコミュニケーションをとることが苦手な生徒も見受けられる。また、自分本位な言動から生徒間のトラブルにつながることも増えてきた。そこで集団を通して他とつながり、相手を思いやる心を育むことを本年度の道徳教育の研究主題として設定した。

## 研究構想図

### 松江第二中学校 教育目標

- すすんで学ぶ生徒
- 心の豊かな生徒
- 健康でたくましい生徒

教師の願い

生徒の実態

保護者の願い・社会の要請

道徳教育のねらい

研究主題

人とのつながり 集団の中で育む思いやりの心

学校教育全体を通して行う道徳教育

要の時間としての道徳授業

目指す生徒像

- 親切な心を持ち、思いやりのある生徒 (一学年)
- 感謝の心を持ち、思いやりのある生徒 (二学年)
- 温かい人間愛を持ち、思いやりのある生徒 (三学年)

豊かな心を育む学習環境

## 研究仮説

- 道徳授業で発問を工夫し話し合い活動を充実させることにより、人とのつながりや生徒の思いやりの心が育まれるようになるだろう。
- 生徒相互のかかわり合いや交流を大切に、学校教育全体を通しての道徳教育を推進することにより、人とのつながりや集団の中での思いやりの心が育まれるようになるだろう。
- 上記の二点を達成するとともに、生徒の豊かな心を育む学習環境を整えることで、生徒の道徳性をより高めていくことができるであろう。

## 実践の概要

道徳の授業の充実を図るため、年3回の研究授業を行なった。また夏期休業中に全教員で指導案を作って冊子にまとめるなど道徳の授業研究に取り組んだ。

### ◎道徳の時間の授業研修 講師 江戸川区立平井第二小学校長 坂口幸恵先生

#### 【1回目 5月18日（道徳授業地区公開講座）】 第3学年研究授業

道徳授業地区公開講座として地域、保護者に公開し、併せて3年生の研究授業も行った。

1年「夢コンサート」佐々木厚さんによる手話を交えたコンサート

2年「みんなの体育祭 HOWマッチ？」

3年「先輩になるということ」

3年生の研究授業では部活動のルールを題材に、他者を思う視点を持ったより良い集団のあり方について考えた。授業については生徒の豊かな発想を引き出すような発問の工夫が必要であるとの指摘をいただいた。

#### 【2回目 10月31日】 第1学年研究授業

資料は「夜のくだもの屋」を使い、思いやりの大切さや周りへの感謝について考える授業を展開した。文化祭での互いに協力し合う取り組みの直後であり、生徒の気持ちに入りやすい題材であったと考える。また各クラスにゲストティーチャーとして主事、事務主事、給食室のチーフを迎え、「思いやり」をテーマにした体験談をしてもらい、人と人とのつながりについて、さらに考えを深められるようにした。講師の先生からは発問の数をもっと少なくし、生徒がじっくり考える時間を確保する事や導入において板書に視覚的効果を取り入れるなど、更なる工夫について助言をいただいた。

#### 【3回目 11月29日】 第2学年研究授業

資料はDVD『「ホームレス」と出会う子どもたち』（ホームレス問題の授業づくり全国ネット製作）を使用した。学校生活の中で協力することの素晴らしさや達成感を感じ、学年としてのまとまりも出てきている一方で、からかいや人の嫌がる言葉を口にする場面も見られる。ホームレス問題を通し、差別や偏見の無いより良い社会の実現について考え、さらに自分の周りの身近な人への思いやりについて考える機会となるようにした。講師の先生からはクラスの実情に合わせた指導案づくりや、生徒が第三者的な視点から考えるだけでなく、「自分だったらどうするか」を考える発問を取り入れるべきとの指摘をいただいた。

### ◎学校教育全体で行う道徳教育

#### I 「学年間の交流の中で他を思いやる心を育む」

学校生活の様々な場面で機会あるごとに学年間の交流を意識して取り入れた。たとえば文化祭の合唱コンクールの練習期間には**他学年のクラスとの合同練習会**を企画する。その中で下級生は3年生の互いに協力しあう姿やその姿勢がもたらす圧倒的な合唱に触れ、また自分たちの合唱への親身なアドバイスを受けることができる。上級生は自クラスの成功だけを考えるのではなく、下級生を思いより良い方向に導こうと努力する中で自らも多くの事を学んでいく。また他学年へ応援メッセージを書き、掲示物にまとめて互いに贈り合った。また1月には受験を控えた3年生を励ますため、**1, 2年生による激励会**をサプライズで企画し、その中で心温まるメッセージを読み上げ、一人一人からのカードを贈った。

## Ⅱ「他のために力をつくし奉仕の心を育む (道路クリーンアッププロジェクト)」

これは本校の前の道路に植えられたイチョウ並木の落ち葉を清掃する生徒会主催のボランティア活動である。11月25日からの20日間、延べ1662人が参加した。朝早く登校し、力を合わせて行うこの活動を通し、他のために力を尽くす心を大いに育てる事ができたと考える。



## Ⅲ「生徒の豊かな心を育む学習環境を整える」

機会あるごとに互いを励ますメッセージを掲示したり、「思いやりを感じた本」の紹介文を生徒が書いて掲示するなど、日頃から温かさのある学習環境を作ることを心がけるようにした。

### 実践の成果と課題

#### ◎道徳に関するアンケートの結果より

今年度の教育課題実践の成果を図るため12月に道徳に関するアンケートを行い、5月の結果と比較した。

	あてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
	5月	12月	5月	12月	5月	12月	5月	12月
挨拶は人と人のコミュニケーションとして大切である	80%	84%	15%	14%	4%	2%	1%	0%
相手の身になって思いやりの心を持つことができる	25%	31%	57%	56%	16%	12%	2%	1%
人のためになることをするのは好きである	43%	52%	43%	39%	12%	8%	2%	1%
人の意見を尊重し、いろいろな考え方がある事を理解できる。	23%	31%	56%	58%	18%	10%	3%	1%
クラス、学年、他学年の人達と協力していきたい。	46%	51%	39%	39%	13%	8%	2%	2%
周りの人々に支えられている事に感謝している。	70%	78%	24%	19%	5%	2%	1%	1%

#### ◎実践の成果

アンケートを見ると、5月の段階においても本校の生徒は想像以上に他への思いやりを意識している者が多いようであったが、12月ではそこからさらに全質問項目において「あてはまる」の生徒が増え、全体的に「あまりあてはまらない、あてはまらない」と答えた生徒が減っていることは大変うれしい結果であった。これは日々の道徳授業の積み重ねや学校教育全体の中で進めてきた各取り組みが思いやりを育み、少しずつではあるが生徒の心を確実に変化させてきている事の現れだと考える。

#### ◎今後の課題

アンケート結果からもわかるように質問項目の中で、「相手の身になる」「人の意見を尊重できる」の2つは他項目より低い結果となっている。5月に比べ伸びを見せてはいるものの、他者理解は思いやりを育む上での根幹をなすものである。今後も道徳教育の重点的なテーマと位置付け、指導に力を入れていく必要があると考える。特に道徳の授業においては生徒の心に本当に響く教材を精選し、より深い考えを導くために発問や話し合い活動を工夫するなどさらに研究を進めていく必要がある。また、アンケート結果から得られた生徒の実態や保護者の願いを道徳の全体計画に反映させ、校内の研修体制をより充実させていきたい。